

うなものであるかは、教育的オペレーションの試みすら行われていない現在において予測することは単なる観念的な所産であって、研究の内容に何らかのものを加えることにならない。オペレーションズ・リサーチを教育研究のなかに組み入れてみて、はじめて明らかにされるべき性質のものであって、いっそう将来の問題でもある。教育研究はまずオペレーションズ・リサーチに意欲的にとり組んでみるのが当面のテーマといえよう。

△成蹊大学▽

支部だより

(関西支部) 暫く活動を停止していた研究会は七月六日(土)京大教育学部において第十五回研究会を開き、京大教授重松俊明氏が「教育と政治」と題して研究報告を行った後、次の事項についての報告がなされた。

- 1 事務局を京大文学部から教育学部へ移した経過報告。
 - 2 会計報告。
 - 3 研究会の成立から今日までの活動状況の説明。
 - 4 東京における研究会の活動状況の説明。
 - 5 研究会の直面している問題点の説明。
- その後出席者全員(二〇〇名)で研究会の運営について今後とるべき方針を協議した。(九月十九日記)

(香川支部) 本年四月以後の活動は専ら支部会機関誌第三号の編集と共同調査研究の推進との二つに重点をおいて計画を進めました。機関誌の発行は最初の予定よりも少々おくれでしたが、去る九月五日にその発行を終えることができました。他方、共同研究の方は、春休みから調査計画にとりかかり、準備を整えて、七月末に四泊五日で大川郡鴨部村の調査を行い、夏

「会員動向」

小川太郎氏・官原誠一氏 第二回世界教員会議日本代表団の一員として、八月ワルシャワへ出張。

古屋野正伍氏 ユネスコ研究事業の一環として本春インドへ出張。

佐々木徹郎氏 本夏アメリカへ再度留学。

田代元弥氏 東南アジア社会教育事情視察のため本秋出發。

休みには結果を集計して、九月五日学内中間報告を行いました。その一部は十月十八・十九日の東京の大会で発表する予定です。目下学生達は熱心にその準備を進めております。(九月二十一日記)

(九州支部) 昭和三十一年十一月二十三・二十四日、福岡学芸大学にて九州教育学会が行われましたが、その際教育社会学関係のものとして左記の報告が行われました。

- 1 「効果的学習の社会的条件について」 福岡学芸大学 田中勝規
 - 2 「社会的必要について」 九州大学 岩永久次
 - 3 「町村合併にともなう教育の問題」 大分教育研究所 〔岩本達則 佐々木均太郎〕
 - 4 「都市社会における近隣集団とその教育的機能」 九州大学 小林文人
 - 5 「山村社会の教育」 福岡学芸大学 塚本正三郎
 - 6 「官行村の社会的性格と教育」 宮崎大学 泉幸雄
 - 7 「中学校教育の地域社会的条件」 熊本短大 田中一生
- (九月二十八日記)